

1. 略歴

- 1982年3月 東京大学文学部国文学専修課程卒業
- 1985年3月 東京大学大学院人文科学研究科国語国文学専門課程修士課程修了
- 1987年3月 東京大学大学院人文科学研究科国語国文学専門課程博士課程中退
- 1987年4月 東京大学文学部助手
- 1990年4月 上智大学文学部専任講師
- 1995年4月 上智大学文学部助教授
- 1997年4月 東京大学大学院人文社会系研究科助教授
- 2007年4月 東京大学大学院人文社会系研究科准教授
- 2010年4月 東京大学大学院人文社会系研究科教授

2. 主な研究活動

a 専門分野

日本近代文学

b 研究課題

太宰治の文学の自意識過剰の饒舌体と呼ばれる文体に注目するところから出発、そのような文体が育まれてゆく必然性を近代文学史の展開に即して考察して行く中で、「私小説」というわが国独自の表現形式の生み出されていく過程を表現史的に解明する方向へと進んだ。作家論の一環として太宰治の文学の特質を解明して行く方向と、小説を中心とする日本近代文学の表現機構の研究とを、並行的しておしすすめて行くことを研究課題としている。

c 概要と自己評価

「表現機構」という観点から、小説が小説として認知される暗黙の要件を分析し、近代日本における変遷の様相を、『近代小説の表現機構』（岩波書店、2012年）にまとめ、それをさらに一般書の形で『日本近代小説史』（中公選書、2015年）と『私』をつくる『近代小説の試み』（岩波新書、2015年）にまとめた。これら近代小説研究に関する成果を踏まえ、蓄積してきた太宰治研究を再検討し、集成することが現在の課題になっている。

d 主要業績

(1) 編著

安藤宏、関口隆一、中村良衛、山根龍一、山本良共編『日本近代思想エッセンス ちくま近代評論選』、筑摩書房、2017.10

(2) 論文

安藤宏、「『晩年』試論 執筆順位を中心に」、『太宰治研究』24、2016.6

(3) 編集（編集責任者）

安藤宏、『太宰治文庫目録 増補版』、日本近代文学館、2017.4

安藤宏、『日本近代文学館開館 50 周年記念 漱石・芥川・太宰から現代作家まで 近代文学、再発見！』、日本近代文学館、2017.9

(4) 小論・解説

安藤宏、「『太宰治文庫』追加寄贈資料の概要」、『日本近代文学館年誌 資料探索』、12、2017.3

安藤宏、「進化、する『太宰治文庫』」、『日本近代文学館』、277号、2017.5

安藤宏、「編集後記」、『太宰治研究』、25、2017.6

安藤宏、「『間隔論』の実践」、『定本漱石全集第十四巻』月報、岩波書店、2017.11

安藤宏、「小説は生きている」、『日本近代文学館』、280号、2017.11

3. 主な社会活動

(1) 学会

日本近代文学館理事（2016、2017年度）、昭和文学会幹事（2016、2017年度）

(2) その他

筑摩書房教科書編集委員（2016、2017年度）、読売新聞読書委員（2016.1～2017.12）